

カンボジアの結婚式は盛大です。

12月から3月の乾季はカンボジアの結婚シーズンです。前号で書いたV先生の結婚式に行きました。カンボジアの結婚式は朝7時の花婿行列で始まります。といっても形式化されており、婚家に集まったお客さんは新郎新婦側関係なく、業者が用意したお祝いの品を持ち、100メートル程離れたところに整列します。女性は皆民族衣装で着飾っていますが男性は普段着の人が多そうです。婚家の前の道路にはテント張りの宴会場が設えてあり、新婦のご両親が出迎えます。私は半日しか出席できませんでしたが、V先生の結婚式は朝から晩まで2日間ありました。ある雑誌によると新婦のお色直しは平均12回、結婚式専門の美容師が付きっきりで世話をし、プノンペンではその費用だけで1000ドルになると書いてありました。プノンペンには専門の結婚式場(1000人位の宴会場)もあり、1日(朝から晩まで)の結婚式の総費用は1万ドル(日本の物価感覚に直すと1千万円)だそうです。

花婿行列の後、朝食(ボボーという具たくさんのおかゆ)が振舞われ、大方の客は1時間位で帰ります。奥の部屋では親族だけでいろいろな儀式が執り行われており、残った客はその間待っています。お昼近くになり、新郎新婦がそれぞれ介添えの男女3人ずつを従え登場します。両親、親戚、関係者一同が席に着き、アヤイという男女の掛け合い漫才が始まります。カンボジア語なので私には分かりませんが、皆笑い転がっています。その後、両親や親族が櫛と鋏を持って髪を切り、香水を振り掛ける儀式があります。

カンボジアでは3は縁起の良い数で、仏教の三宝(仏法僧)からきているようです。

太陽を礼拝する儀式。  
茶碗が3つ並んでいる。



花婿行列。お祝いの品には番号が付いていてその順番にならぶので、合理的です。



花嫁の両親が出迎えます。左は行列を先導する子供たち。



アヤイという伝統的な掛け合い漫才。



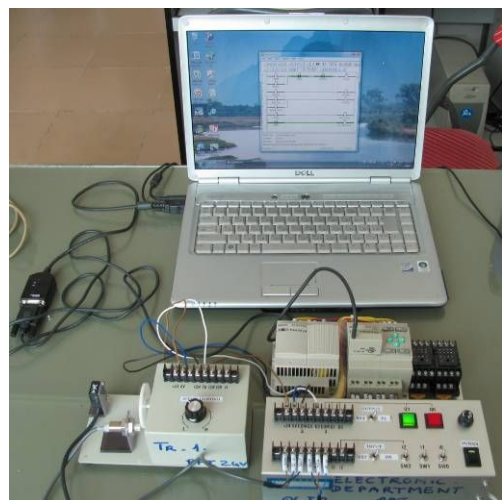
髪を切る儀式。私の隣は花嫁のお母さん。

後日、V先生に新居はどこかと聞いたら奥さんの両親と同居しているという答えでした。カンボジアは女系相続の社会で、娘が結婚するときは家を建ててやり、そして末娘が両親と同居します。農村では上の娘は家だけ建てて貰い、末娘が両親と一緒に暮らし、田畑も相続するそうです。

### 初めて仕事を貰いました。

年末から一時帰国で日本に帰っていましたが、2月初めカンボジアに戻りました。学校へ行くとC先生からPLC(Programmable logic Controller: 工場の製造ラインなどで使う専用のコンピュータ)という実験教材の使い方を教えて欲しいと頼られました。何か教えたくても先生方がなかなか来てくれないのが普通なので、向こうから習いたいと言ってくれるのはとてもありがたいことです。「勉強するので1週間時間をください」と言って引き受けました。別の若い先生が“ロジック”の授業でPLCの理論だけを教えているのを知っていたので、「あなたに教えたことを他の先生にも教えてね」と口から出掛かりましたが、言葉を飲み込みました。先生同士仲が悪いわけではありませんが、仕事で協力するという習慣がありません。そんなことはボランティアの私がやればよいことです。

何故私が帰るのを待ち構えて頼みに来たか？事  
の背景はこうです。12月にC先生ともう1人若い  
先生がマレーシアへ2週間の研修に行きました。そ  
こでPLCの実習をした。数年前に日本の団体が当  
校へ来てPLCの研修をしてくれたが当時は誰も使  
おうとしなかったのが、寄贈された実験機材3台は  
校長が保管していた。今回C先生がやる気になり、  
機材を電子科に移管してもらった。彼は1ヶ月掛け  
使おうと試みたがうまく動かない、そこで私に助け  
を求めたわけです。彼はかなり勉強していましたが、  
パソコンと実験機材のデータのやり取りができな  
いというちょっとしたところでつまづいていまし



PLCの実験機材。

た。この問題は半日で解決し彼に教えました。資料が全て日本語です。せつかくのチャンスなので、1ヶ月掛け英文のテキストを4種類作りしました。C先生とこの技術に関心のある5名の先生にテキストを配り一段落です。いつも私と少し距離を置くC先生がこの時は「ありがとう」と言ってくれました。今、彼は私のテキストを基にカンボジア語のテキストを作り、授業で学生に教えようとしています。私が何か教えようか手伝おうかと言っても自分でできるからいいとさっとかわされ、本当に困ったときだけ聞きに来るので、可愛げがないのですが、実はこういう人の方が優秀で期待できます。彼とはお互いに実力を探り合いながら大人の付き合いをしています。

今までネパール、マレーシアでJICAのボランティアをしてきましたが、カンボジアが一番活動し易いと感じています。カンボジア人は勉強熱心で前向きで、上から強制しなくても、お互いの気持ちを通じ、学び合えるような手ごたえがあります。